

「昨年、社会党議員団の活躍で、大牟田川にカドミウムが流れていることを暴露して以来、カドミウム汚染米など、大牟田市の公害は、全国でトップ・クラスには入り、マシムミをにぎわし続けています。」

**恐るべき毒素**

最近、ヒ素が「全国水質汚濁総点検」でもっとも汚染のひどかった静岡県、清水港の〇・二四PPMより約六倍も上まわって出ました。(県庁での採取分析で、一・三九PPM)

ヒ素は、〇・五ミリグラムから五ミリグラムで、致死に至る毒物です。

社会党議員の指摘に対し、会社自体は、「三西開発会社(三井系列)に、一週間に一回ずつ検査させていた」と答えました。会社が真面目に検査していたならば、早くから検出されていたはずで

「ヒ素は、高級染料製造過程で、月に二〜三回使う」と、大牟田川への排水の中には、二〇〇PPM位が含まれているらしいことがわかりました。

**マスタープランを斬る**

その7 「三井は秘密に市は後手に」

政治局員 蓮尾 信治 郎

大牟田川調査 (昭和45年1月~12月)

平均値	0.0335PPM	最高値	0.780PPM
最低値	0.0334PPM	平均値	0.278
標準偏差	0.0881	平均値	0.08
標準偏差	0.0335	平均値	0.0335

基準は「人の健康に係る環境基準」

**危険な諏訪川**

千葉大学の名誉教授、滝沢次郎

漁業補償の面では、いまは知られていますが、カドミウム汚染反対闘争は、広範な人びとの強力な支持があり、三煉は、約三億円で、たれ流しにならない循環方式による処理措置をしました。早米ヶ浦漁協の闘いは、公害闘争の歴史に長く輝くでしょう。

氏は、「日本におけるカシンベツク病(骨が曲ったり、背が伸びなくなったりする)の研究」で、大牟田市の諏訪川の水を分析して、いまま、それによると、カシンベツク病の有機物質は五PPM以上は危険なのに、諏訪川は七・九PPMも汚染されているのです。

また、大牟田川で不検出の有機リンが一部橋下流で〇・九六PPM、倉掛で一・二六PPM検出されました。(本来なら給水停止)

この調査は、市水(主として清里村の井戸水)に比べ、非常に危険だといっています。一部橋の取水附近は、白井社宅や一般市民の洗濯などの汚水が、漂流水の五多〜三〇多も流れこんでいます。大腸菌が十個以下の基準に対し、一千万個もあったのです。

水道法第五条「取水施設は良質の原水を取り入れることができるものとする」に、違反の疑い十分

早米ヶ浦漁協は、カドミウム汚染のため、採つても食えなくなつてしまつた貝を、三煉正門にはらまき、抗議の座りこみも続けた。(車窓の向う)

主婦会では、来たる七月十六日の定期改選をひかえ、いままでの運動を振り返りながら、今後の主婦会運動の発展のために、現在交流座談会を開き、話し合いを深めています。

おもな内容は、「会費値上げの問題」「夏季児童対策」「敬老会のこと」「金庫をどうするか」などで、去る二十九日中央執行委員会を開き中間総括を行ないました結果、次のことが確認できました。

勝利の喜びを分かち合いたいと思ひます。

夫は、「安保と三池」の闘いを、四山のホール職場分会長。地域では、福祉四分会の分会長として闘ひ、就労後も同分会長に再選され、千二百名の人のため頑張らねばならぬ。

「本件控訴は、棄却する。控訴人の負担とする」

この際、私は夫とともに闘つた十年間の苦闘が、一時に吹き飛ばされた。

夫が、「作業指示拒否」「暴力行為」「生産阻害者」「反省の色がない」との口実で出勤停止。ついで、「不当解雇」されてから十一年目の勝利。昭和四十三年一月、仮処分申請により地位保全に勝利して、満四年ぶりに、再び勝利していただきました。

この公判闘争のあいたの、みなさまがたの物心両面の支援に深く感謝を申し上げます。そのころ一部の人たち、本当

は善意の心づかいからだったと思ひますが、「会社が退職見舞金として百二十万と言つてくるんだから、子供さんたちの成長期で金も一番必要なんだから、こは目をこらして、取らぬものは取る。闘うのは、それからはおろそかにはしない。だから、おろそかにはしない。また、ぐれた技術を体得して、右

また、地域での勝利で緑ヶ丘社事務所に職場復帰した夫にたいして、会社の巻き返しは予想以上にきびしく、判決の日まで、勝敗の予断は全く不明。精神的な苦痛の四年間でした。

幼なかつた娘たちも、今では上から三人目までお嫁に行き、一番下の娘も二十才の成人を迎えました。孫の二人もでき、娘たちも、自分のことのように喜んでくれています。それについて、再度にわたる裁判での勝利にもかかわらず、夫を原職復帰させずに、依然として緑ヶ丘社事務所に「島流し」にしていただきます。せむしもみなさまがたの支援により、一日も早く原職復帰を闘ひ取り戻したいと思ひます。

私もともに頑張ら、これからは夫とともに歩きたいと思ひます。

岩橋作業に闘ひ、極めて苦しい先でした。

これからも夫と共に歩く覚悟です

福四分会 谷口 きくえ



谷口さん

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

三月一日に、〇〇患者の経過観察中の十九人に、職能回復訓練が申し渡されました。十人の方は、これで一体どうなるかといふことを、いろいろ考えてみました。が、女の考えでは、はじめに思ふのは毎日の生活のこと。労働省からの五百五十円の訓練手当、三井鉱山が出す二、三万円、会社は、患者のひとがどうやって生活していか

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

め、県史上初めてです。候補は四十三年十一月に初の公選「主席」となり、復帰後、現職に移行した屋長朝臣(革新共闘)、大田政作(自民党)西氏。

県議選は自民27、社大11、社会7、人民7、民社1、公明1の各候補が、保守革新いずれが過半数を占めるかをめぐって激戦を展開します。

【連合】

害の犠牲者と遺族を守り、会社の責任を追及しながら、生命を守る闘ひをすすめる中で、熱中症や腰痛症等についての要求もつきつていくことが大切だと考えました。

そこで、できることから取り組もうと、五月十八日に、四山県界の訓練手当て、三井鉱山が出す二、三万円、会社は、患者のひとがどうやって生活していか

と、思つて、ヨーカー販売とカンパ呼びかけをいたしました。

合計しますと、五、五千枚、ヨーカー百本、カシバ、二万三千七百円という成績を現しました。

人によつては、「まだひどい人がいるのですか。公害の写真を撮っていますので、どこにいられますか?」と問うて頂いた学生さんもありました。

また、「遺族は、いまだどうしていられますか?」と聞いてきた。さうした人もありました。もつと、世の中ですが、会社の合理化が次々に強められていく今日、いつそ団結して犠牲者を守りながら、災害をなくす運動に頑張らねばならないと思ひます。

人の喜びをともに喜び、人の苦しみをともに苦しむのが助け合つていってこそ、本當の団結があるのではないか。

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」

「復帰後の沖縄 各選挙近づく」